

みんなのぎがいだより

題字：鮫川小学校
5年 中川西 はるき 温基さん



9月定例会

令和元年度決算	
村のお金の使いみち	.. 2~3
一般質問に5議員登壇 5~10
村民の広場 11
ふるさと鮫川への想い 12

使いみち



9月
定例会



関根政雄 村長

気になる鮫川村の

借金と貯金

令和2年3月末現在(村のさいふ)

借金 村債

27億8449万円

貯金 基金

19億7481万円

村民1人あたり
約85万8000円

村民1人あたり
60万8000円

9月定例会の あらまし

令和2年第5回議会定例会は、9月23日から30日までの8日間の会期で開催されました。第1日目に、一般質問では、5名の議員が登壇し、様々な問題を取り上げ、村政について質しました。

また、令和元年度決算に基づく健全化判断比率及び資金不足比率についての報告後、令和元年度決算認定10件、令和2年度各会計の補正予算10件のほか、村道路線認定1件の提案

理由の説明がありました。

第2・3日目に、総務文教常任委員会と産業厚生常任委員会の議案調査を開き、第4日目の現地調査とともに議案を審議しました。

最終日に、審議した決算認定、補正予算、村道路線認定、さらに、議員発議の意見書1件が審議され、全ての議案を原案のとおり可決しました。また、追加提案された村教育委員会委員の任命同意、原案どおり同意可決されました。

専用のさいふ

特別会計

国民健康保険特別会計(事業勘定)

会社員ではない人の健康保険専用さいふ

入 4億452万円 出 4億9万円

国民健康保険特別会計(直診勘定)

村診療所専用さいふ

入 6963万円 出 6682万円

簡易水道事業特別会計

水道専用さいふ

入 1億3885万円 出 1億3097万円

村営バス事業特別会計

村営バス専用さいふ

入 1235万円 出 1148万円

集落排水事業特別会計

集落排水専用さいふ

入 3665万円 出 3450万円

介護保険特別会計

介護保険専用さいふ

入 4億9612万円 出 4億9491万円

交流施設特別会計

ほっとはうすさめがわ(宿泊施設)専用さいふ

入 1706万円 出 1636万円

学校給食センター特別会計

学校給食センター専用さいふ

入 9516万円 出 9494万円

後期高齢者医療特別会計

75歳以上の方の健康保険専用さいふ
(一定の障がいがあると認定を受けた65歳以上)

入 3705万円 出 3693万円

令和元年度 決算

村のお金の

村の さいふ 一般会計

入ってきたお金
37億1997万円

使ったお金
33億3922万円

村の力で得たお金

みなさんから税として集めたお金	2億7740万円
村の事業で村民の負担したお金	421万円 3291万円
保育料や村の住宅を貸すなどして得たお金	4億7938万円
貯金を崩したお金	
昨年残したお金	1億9258万円
寄附金・その他のお金	1億95万円

国や県からもらったお金

国からもらったお金	19億1112万円
国や県からもらい使い道が決められたお金	5億4492万円
国庫支出金 県支出金	
国や銀行から借りたお金	1億7650万円



人件費	5億4041万円	村長、議員、職員に払うお金
扶助費	2億1965万円	お年寄りや体の不自由な方を助けるお金
公債費	3億5401万円	借金を返すお金
普通建設事業	3億6522万円	道路や建物などの建設事業に使うお金
災害復旧事業	1億6189万円	台風の災害により河川などを直すお金
物件費	4億4765万円	事務用品などを買うお金
維持補修費	1238万円	建物などを直すお金
補助費等	5億7022万円	地域や各団体へ補助するお金
貸付金	1550万円	他に貸すお金
積立金	2億9625万円	貯めておくお金
繰出金	3億5604万円	専用のさいふに移すお金

議案調査

事業実績を 現地調査!



補助金を利用した建設工事が完了したグループホーム

令和元年度に完成した事業や今年度の事業について、各常任委員会による合同議案調査を実施し、現地調査にて事業実績を確認しました。

総務文教 常任委員会

問 小型動力ポンプ・積載車
837万円

答 消防団第一分団への整備

問 公衆無線LAN整備
工事400万円

答 公共施設などへの
FreeWiFi整備

問 村外生徒通学支援金
497万円

答 鮫川村以外から通学
する生徒の保護者への
通学支援金

問 予備費 1452万円
答 災害等緊急時対応費
用として増額

産業厚生 常任委員会

問 道路維持工事 1670万円

答 災害復旧工事に該当しない、緊急
を要する村道、林道の修繕工事

問 河川堆積土砂撤去工事
330万円

答 彦次郎、馬場地内の河
川堆積土砂撤去工事

問 新生活環境整備応援
事業280万円

答 新型コロナウイルス感染
防止対策を行う村内事
業所への助成金

問 森林整備基本方針策
定業務776万円

答 森林環境譲与税を活
用した村内の森林整
備計画

問 移動スーパー生活支
援事業500万円

答 すまいる、手まめ館の2
店舗で使用する車両購
入費



第二期工事が進む棚倉消防署鮫川分署



青少年広場の大規模改修工事



危険箇所が改良された国道289号線

議員5人が登壇ズバリ!! 村政を問う!



P 6

北條 利雄

- 振興計画と総合戦略
- 環境公社の設立
- 振興公社準備室



P 9

遠藤 貴人

- ジェンダーフリー教育



P 7

関根 浩治

- 農業施策の計画
- 畜産クラスター



P10

前田 武久

- 公共施設の閉鎖
- 旧つるや旅館



P 8

宗田 雅之

- 年金・医療・介護
- 子育て支援

一般質問は、議員の日常活動を通じて、住民の声や自身の考え方をもとに、村長、教育長などの方針を問うものです。鮫川村議会は、一人あたり90分の制限時間内であれば、質問の回数に制限はありません。

出席議員

議事の進行



星 一彌 議長



前田 雅秀 議員



関根 英也 議員



堀川 照夫 議員



森 隆之 議員



北條 利雄 議員

問

鮫川村振興計画と総合戦略を問う

答

満足度を高める施策を 計画に反映する

質問

鮫川村振興計画は、本村の最上位の行政計画。総合戦略は、振興計画の実施計画に位置づけられ、整合性を図るとされる。振興計画の後期計画と総合戦略の見直しの計画策定が、村づくり委員会とコンサル委託により進められている。振興計画の前期計画と第1期総合戦略の点検と検証結果、振興計画の後期計画と第2期総合戦略の計画期間の補正、村長公約と村民との対話の整合性、現在の進捗状況と今後の方向性を問う。

答弁(村長)

振興計画前期計画の点検・中間評価の検証を行い、施策のヒアリングを実施し、後期計画策定を進めている。総合戦略は、整合性を図る必要性から1年延長する計画策定方針とした。検証結果は、12月に示す予定。基本は、「ふるさと回帰」「稼ぐ力の創出」「暮らしやすく賑わいのある村」が目標。新たに「暮らしやすさの充実」を加え、満足度を高める施策を計画に反映させ、事務事業の精度を高める。



「第4次鮫川村振興計画」と
鮫川村「人口ビジョン・総合戦略」

問 環境公社の設立を問う

答 農業振興を支え稼ぎ出す法人設立を目指す

質問

本村にも多くの環境問題が存在する。課題別に様々な角度から個々に取り組んでいる。活動を通して得られた知見を利用し、幅広い視点で「環境公社」を設立するとされる。この設立への「経過や過程」の基本枠組みである①検討スケジュールの日時や時間②検討場所や組織③検討体制で誰が、誰と誰に④検討項目の対象⑤目的と理由や背景⑥検討の方法や程度⑦検討の範囲や領域の七要素を問う。

答弁(村長)

遊休農地の荒廃、生活道の環境整備、雇用創出などの課題に対応する組織として設立が望まれる。農業振興を支え稼ぎ出すことがで

きる法人設立を目指す。

答弁(副村長)

プロジェクトチームを編成。労働力不足、雇用環境や農村環境の悪化がある。年間を通じた仕事の創出と里山の景観維持が目的。業務内容や組織体制、事業資金などの関係機関との連携協議。業務範囲や運営コスト、資本金や収益の検討。事業展開への課題や制度の活用。コスト面や運営形態を検証し検討を進める。

問 振興公社準備室を問う

答 改善策を実施し、法人化の時期を判断する

質問

大きな期待を抱かせてきた「振興公社準備室」。行政に人的組織が配置され、準備が開始されてもう何年経過するのか。政策的に地域振興を目指すのであれば、「振興公社準備

室」の今までの経過と説明責任が求められる。「振興公社準備室」の今までの位置付けと経過、今後の計画の方向性や事業実施の是非、存廃を含めた判断など村民への説明責任を問う。

答弁(村長)

農産物加工直売所の公社での運営を目指す目的に準備室を設置。設立に向け検討を幾度となく重ねてきた。経営状況が年々厳しくなり、公社設立に至らなかった。中心地域活性化のための拠点施設整備計画に合わせ、運営主体を村づくり会社(仮称)に移行が可能かどうかの調査研究を進めている。主要施策の具現化に向けた法人設立を目指している。基本的な意識改革、抜本的な経営改善、生産者への支援と担い手育成など、総合的な改善策を計画的に実施し、法人化の時期を判断する。



関根 浩治 議員

問 今後の農業施策の計画を問う

答 現在の農業施策を基本に展開する

質問

我が国の食と活力ある農業・農村を次の世代につなぐため、産業施策と地域施策を車の両輪として推進し、将来にわたって国民生活に不可欠な食料を安定的に供給し、食料自給率の向上と食料安全保障の確立を主眼として制定されている。鮫川村は、今後どのような農業施策を策定計画しているのかを問う。

答弁(村長)

本村の農業振興は、まさしく村の基幹産業である農業を支えていかなない限り、農地の荒廃、さらに担い手の育成や認定農業者の先導まりの現状の中、特に畜産を中心として担い手が今後育ちつつある。さらに集約農業水田の請負耕作等の取り組みに対して、国、県の農政に対する手厚い支援、補助等もあり農業を支援する体制にある。それは、国と県の助成に合わせ、村独自の担い手育成、村の実情

に合った支援策を構じたい。

再質問

食料、その他の農産物供給の機能及び、多面的機能が適切かつ十分に発揮される農業の生産条件の整備及び、生活環境整備、そして、その福祉の向上により、その振興を図ることを基本としている。村に合った振興計画の進め方について問う。

答弁(村長)

本村の農地環境の実

情を見ると、まだ環境整備がなされていない中、農村維持を大粒の汗を流しながら、農地を守り耕作しており、そういった方々が、何でお困りか、今後どのような農業を展開していくのか等の、現状把握と、農業視野や、関係機関等、総合的な産業振興のために、農商工連携し6次化の推進により、付加価値をつけて提供する等の、村の実態に合わせた村独自の、農業施策を組み立てたい。

問

畜産クラスター事業の進捗状況についてを問う

答

新型コロナウイルスの影響にて、協議する会議開催できず、クラスター計画に関わる協議会設立に至っていない

質問

令和2年3月の定例会にて、畜産クラスター事業を新年度より取り組む旨の答弁を伺ったが、新型コロナウイルス禍の中で大変であるが、その進捗状況について問う。

答弁(村長)

畜産クラスター事業の取り組みについては、令和2年3月の議会にて、関係機関、団体及び畜産農家と協議し取り組むと答弁しているが、4月以降には、新型コロナウイルス感染対策により、協議する会議の開催ができず、クラスター計画に関わる協議会の設立に至っていないが、畜産クラスター計画樹立については、畜産農家が、どのような事業施策や、整備を望んでいるかを調査

し、現在の畜産農家が要望する、施設整備等の畜産クラスター計画、補助事業の実施に向けて、意見聴取を進めている。

受託での機械化による収穫作業



次のページは

一般質問

宗田雅之議員・遠藤貴人議員



宗田 雅之 議員

問 高齢者への対応を問う

答 各、支援、施策を講じて支えていく



問われる介護施設の在り方

質問

年々高齢化が進み、年金、医療、介護などの課題が山積する中で、村としての対応策を伺う。また高齢者や疾患のある人が重症化するとされるコロナウイルスへの一層の予防、検査の充実、医療機関との連携の強化を図るべきと考えるが、現状を伺う。

答弁(村長)

今、村では民生児童委員による自宅訪問や社会福祉協議会による、地域生活を支える資源

を育む取組みの展開をしている。また包括支援センター、居宅支援事業者により生活の質の向上を目的にサービスクラスが出来るよう、体制整備に取り組んでいる。コロナウイルスに関しては、県より感染症に関する検査を実施する体制を構築する旨の通知があり、国保診療所において抗原検査を行う方向で準備をしている所である。地域外来検査センター設置に向けても、町村会、郡医師会、塙厚生病院の3社で要望書を提出、話を

進めている。今後も基本的な感染対策、手洗い、マスクの着用、3密を避けるなど、感染防止に取り組んでいく。

再質問

今後、団塊の世代の後期高齢化に伴い、介護施設の受け入れの飽和化、それによる在宅介護の増加が予想される中、老々介護など、介護する人の高齢化が危惧されるが、村としての対応を伺う。また、介護施設の人材不足、介護士の高齢化が心配されるが、対応は。

答弁(村長)

高齢者対策は村民全体で応援しなければならぬ問題である。今後、需要の調査を行い、何が必要なのかを検討し、進めていきたい。

再質問

買い物弱者支援の為に設置された(すまいる)の価格体系が高いのではとの声がある。高齢者、特に国保年金受給者にとっては、価格

の問題は生活する上で大なるものがある。

答弁(村長)

町の量販店と比べれば仕入れ体系が違うので高いものがある。ただ電話一本で届けてくれる利便性もある。年間800万近い人件費を補填して運営している施設であるので高いのも致し方ないと考える。

問 子供たちの対応策を伺う

答 子育て支援と定住促進の環境の充実が不可欠

質問

次世代を担う子供たちが減少し、今後の村づくりが危惧されるが、村としての対応策を伺う。

答弁(村長)

人口減少への対応、子供の元気な声が響く村づくりは村を存続させるための重要課題で

ある。そのためにも、子育て支援と定住促進の環境を充実させることが不可欠である。今後は若い世代の意見や要望を聴取したプランを策定し、推進する必要がある。さらに住宅リフォーム補助、公営住宅入居者支援など要綱案を作成しているところである。また、学力やスポーツ向上に加え、優しくも力強く生きぬく力を養う教育を軸として、子育て世代の方々の移住・定住促進につなげたい。

再質問

コロナ禍にあつて、若い人たちの生活困窮の調査をしているのか。

答弁(村長)

村長に就任してからは記憶がない。

答弁(教育長)

学校関係に関しては、経済的に苦しい家庭の場合には就学支援制度を利用して頂ければ、困窮者に対して支援できるかと思う。



遠藤 貴人 議員

問 ジェンダーフリー思想に振り回されていないか

答 男女共同参画社会の観点から

質問

ジェンダーフリーとは、生物学的な性差(性別)は生まれつきのものだが、男らしさ、女らしさなどの性差(性別)は社会的・文化的につくられたものであるから否定せよというもの。

質問

ジェンダーフリー思想では、男女の生物学的性差以外の違いは認めない。生まれたときは男も女もないのに、男として育てられるから男に、女として育てられるから女になると主張するジェンダーフリー思想に公教育が振り回されていないか。

答弁(教育長)

ジェンダーフリーの視点ではなく、男女共同参画社会の形成、人間尊重、男女平等の観点から。男女が互いにその人権を尊重し、対等なパートナーとして様々な分野に参画し、その個性と能力を十分に発揮できる社会が男女共同参画社会の姿。

再質問

男女混合名簿が増えているが、これは男が前、女は後ろといった偏った概念をつくらないよう、小さいうちから人間尊重、男女平等の意識を育むため。

再質問

男女共同参画について学ぶ機会はあるか。

答弁(教育長)

中学校で使用している教科書において、社会科や家庭科、保健体育科や道徳などに男女共同参画社会に関する内容が盛り込まれている。

子供たちは共生社会を築いていく学習を行っている。今後も男女共同参画の形成、人間尊重、男女平等の観点を大切にしながら、鮫川村の教育を推進していきたい。

再質問

男女混合名簿、男女押しなべての「さん」づけが主流になってきたと感じている。

再質問

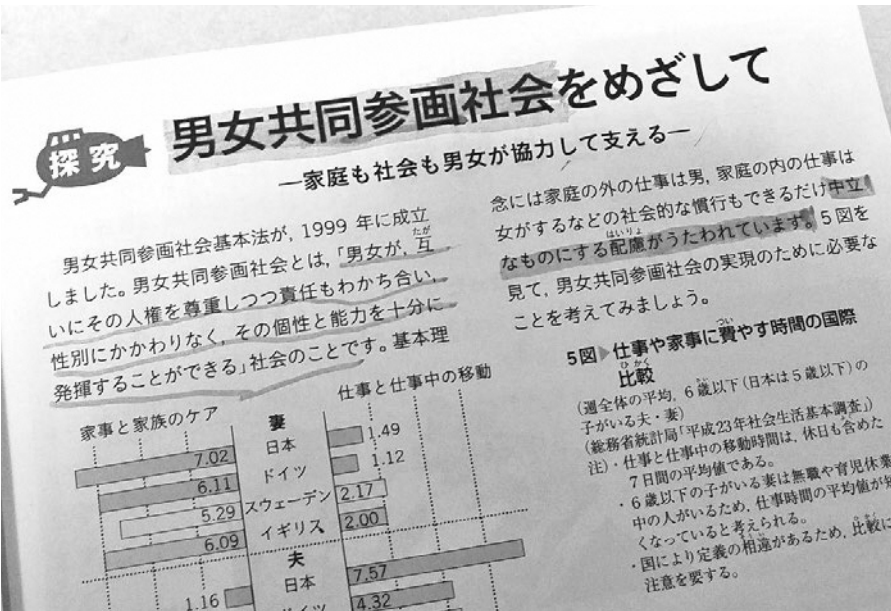
混合名簿移行による問題は。

答弁(教育長)

小学校では男女混合名簿に移行しても特に問題なかったが、中学校においては男女が別に活動する機会も多く、混合名簿を作成すると業務が煩雑になるということから、広がっていない。

答弁(教育長)

平成十数年頃から男女混合名簿を作る学校が、特に小学校で増えてきた。県南地域で男女混合名簿を採用している学校は、小学校37校中35校。中学校で18校中4校。



男女共同参画社会を学ぶ教科書(参考画像)

次のページは

一般質問

前田武久議員・村民の広場



問 閉鎖への進捗状況は

答 閉鎖へ向け模索している



開設が期待される宿泊施設

質問

公約された公共施設（ほつとはうす）の閉鎖は、宿泊施設（旧つるや）のオープンに合わせ、ほつとはうすを村直営から切り離し、民間譲渡をめどに、令和2年から取りかかるようになっていたが、進捗状況を問う。

答弁(村長)

閉鎖に向け担当課で、譲渡のため施設継承する事業者を募集するが、他の用途に転換を図るか、その可能性を模索している。

再質問

具体策はまだ無いとの答弁であるが、公約

等を守ることに違いはないか。

答弁(村長)

答弁を曲げることはない、譲渡の仕方などを、全員協議会で相談したい。

再質問

全員協議会の時期はいつか。

答弁(村長)

建物の価値を早急に算出し、専門家の意見も交え皆様に提示し、全協を開き新年度予算に特別会計として支出することに間に合わせ

再質問

宿泊施設（旧つるや）オープンの目安があるが、全協開催、年内には大丈夫か。

答弁(村長)

年内と言わずに、今議会終了後に内部検討を進めて、公開できるような原案をつくる。

質問

宿泊施設について（旧つるや）

(1) 旅館の改修工事は、12月21日の工期であるが、施設の開設予定日を伺う。

(2) 施設の名称は、公募すべきと思うが如何か。

(3) 施設の賃借条項を伺う。

(4) 施設の宣伝状況を伺う。

答弁(村長)

令和2年12月21日が工期で、請負業者には工事期限を遵守させる、旅館の開設は、工事完了後、消防署、保健所の許可後早くとも、3月中旬頃の開業予定、名称は経営予定者に任せる、賃借条件は対応期間五年間で必要に応じ延長可、使用料は当面無料、施設契約は12月迄に進める、宣伝は経営者の意向も含め、村公式ホームページや広報紙による他、経営者独自の宣伝による方法を考えている。

再質問

旧つるやの建築竣工図面が無いと聞くが、設計図、設計書を保持すべき、3月中旬オープンは間違いなのか。

答弁(村長)

竣工図、当時の図面の有無を再確認する。開所は年度内に行い、営業開始は3月半ば、村内外の方々の利用を願う。

再質問

宿泊施設の名称（屋号）は村の施設でもあり、村民の意向に沿った馴染のある屋号とすべき、村民への公募をするべきと思うが。

答弁(村長)

提案の村で公募とのことであるが、公設民営にふさわしい名前を付けられるよう、経営者の方にお話ししてみたいと思う。

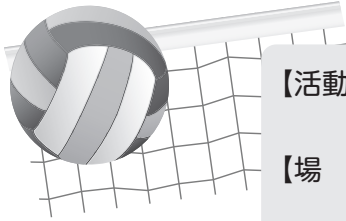
村民の広場

～スポーツクラブの紹介～

西野フェイバリッツ

西野フェイバリッツは、主に西野地区に在住している女性によるバレーボールチームです。毎週金曜日の夜、農業者トレーニングセンターで練習をしています。メンバーは20歳から50歳代までと幅広く特にママさんが多いので、集まれば子育ての話をしたり、さまざまな情報交換をしたりと、バレーの練習だけでなく地域の人々とのつながりが持てる貴重なコミュニケーションの場となっています。

生涯スポーツと言われるバレーボール。この機会に、体を動かしたい方、交友関係を広げたい方、大歓迎です。お子さんが小さい方でも大丈夫。先輩ママさん方が助けてくれます。ぜひ一緒に楽しくバレー&おしゃべりをしましょう。お待ちしております。



【活動日】 金曜日
午後7時30分～9時

【場 所】 鮫川村農業者
トレーニングセンター

【代表者】 藤田 圭子

議会傍聴者からの一言

— 9月定例議会傍聴者アンケートより —

◆ 議員の発言内容は良くわかりましたか

・ 質問時間にある程度、制限時間があつたほうが良いと思う。
また質問内容をもつ少し要約したほうが良いと思う。

◆ 答弁者(村長・教育委員長・職員)の発言はわかりましたか

・ 質問内容が事前に配布されているのでわかりやすい。

◆ 傍聴されて気づいた点はありませんか

・ 議場が狭く感じた。
・ 再質問は1回ないし2回までにしたほうが良いと思う。

◆ 議会全般に対してご意見ありますか

・ 質問内容がかなり突っ込んでいて、行政側とのやり取りが楽しいので良いと思う。

ゆうきくんからのお願い

議会傍聴に
来てくんちナイ!

12月定例議会は
12月上旬からの予定です。



ふるさと鮫川への想い シリーズ③⑧



水野 勉さん

東京都練馬区在住 (大字西山字宝木出身)

◆プロフィール

【生年月日】1949年12月22日

【趣味】写真撮影・ゴルフ

【独立】1979年5月1日会社設立

【現在】株式会社 美津濃

私のふるさと鮫川村の思い出

私の家は兼業農家でした。父親は旧日本海軍航空隊所属のパイロットでした。その父に軍隊精神で私は厳しく育てられました。厳しい父親も私達を育てる為に、たばこ、稲作、麦作りに一生懸命でした。当然私達子供も一員(小学4年)となり手伝いです。夏休みはた

ばこ取り、そしてたばこ挟み(3〜4mの縄にはさむ)乾燥、たばこのし、これが一番辛かった思い出です。

私は、昭和39年の東京オリンピックを白黒テレビで見て東京に憧れて上京しました。東京は目に映る物、食べ物全てが新鮮でした。でも東京は甘くはなかったです。何度も挫折しそうになり、故郷に帰ろうと思いましたが、父親の反対を押し切り、憧れの東京に来たのです。その時勤めていた会社に来られた社長さんに悩みを話したら「私の会社に来ないか」と誘いがありました。仕事は洋菓子店、レストラン、ホテル等の食材を卸す会社です。その営業マンとして就職しました。1ヶ月の研修が終わり独り立ちです。1台の車を提供されたのが試験の始まりでした。1日10件の飛込み(初めての店舗)に加え売上ノルマです、甘くはなかったで

す。そして訛りが抜けず悩みました。

在る一軒の洋菓子&喫茶店に売り込みに行った時の出来事が、私の人生を変えてくれました。30人の従業員を抱えた社長が会津坂下の出身で「君、訛り何が恥ずかしい地で行け」と一括。5回程その洋菓子店に行くと取引をして頂きました。これを機に訛りを武器に?仕事も楽しくなりました。長年務めた会社ですが30歳の時独立を考え、父親に電話にて相談すると「迷惑かけるなよ」この一言でした。この言葉を私は悪く取れたのです(家族に迷惑)この時を境に、故郷に4年帰りませんでした。



編集後記

起こした会社を安定させ両親を安心させたかったので。現在は、自分の会社で仕事をし、合間に20代から趣味の写真撮っています。野鳥・風景・星空等です。現在の私が在るのは、厳しく育ててくれた両親と鮫川村のおかげです。感謝。

新型コロナウイルス感染症が発生し、10ヶ月になりますが、収束どころか世界中で猛威を振るっています。他人に感染させたくない。自分も感染したくないと、外出や集会の自粛を強いられています。

コロナウイルスの発生も自然災害の一つ。自粛生活の中で考える時間を与えてくれたのかもしれない。この際、鮫川の地に、どっしりと足をつけ先を見る時間を作っていきたいと考えています。

(広報編集委員)